

既設の侵入防止柵の嵩上げによるシカの被害防止対策

1 要旨

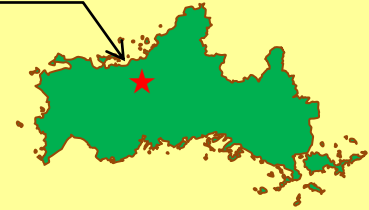
長門市の兔渡谷（とどろく）地区では、これまでイノシシ用侵入防止柵の設置など獣害対策を講じてきたが、イノシシ被害が継続することに加え、シカによる農作物被害が増大し、地区農業の生産性の低下及び住民の生産意欲の減退を招いていた。

このため、地区住民による集落環境調査を実施し、既存柵の問題点や新たな整備必要箇所を確認した。この調査結果に基づき侵入防止柵の改良などを実施した結果、獣害軽減の効果が見え始めた。

2 地区の概要

地区名	長門市三隅上 兔渡谷地区
戸数	27戸（うち農家13戸）
耕作面積	田24.9ha、畑1.9ha
主な作物	水稻
加害獣種	シカ、イノシシ
対策実施年度	平成29年度

長門市三隅上 兔渡谷地区



3 被害の状況と課題

○当地区では、以前からイノシシによる農作物被害が多く見られたが、近年はシカによる被害が増大していた。

○国交付金によるイノシシ用侵入防止柵の整備（平成23年度、総延長約1,800m、高さ1.2m）や、箱わなの設置も行ったが、その後も被害は継続し、新たにシカへの対策も必要となった。

4 取組内容

（1）集落環境調査の実施

○過去の柵の設置後もイノシシ被害が継続した点、及び新たにシカ被害が増大した点を踏まえ、集落環境調査を実施した。

○地域住民による被害状況の把握、既存侵入防止柵の点検のほか、集会などでの聞き取りを通し、獣害発生の分布状況やシカ、イノシシの侵入ルートなどの調査を行った。



被害の分布状況確認



既存侵入防止柵の点検

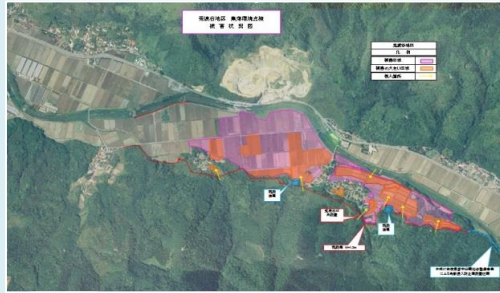


（2）調査結果に基づく対策の決定

○調査の結果、次の2点の状況が判明した。

①既存イノシシ用柵（高さ1.2m）では、シカは柵を越えることが可能で、侵入を阻止できない。

②既存イノシシ柵の設置時、三隅川沿いの一部に柵を未設置だった箇所（約200m）があり、ここからイノシシが侵入している。



兔渡谷地区被害状況図

○以上のことから、侵入防止柵の整備に係る対策を次のとおり決定した。

- ①既存侵入防止柵を高さ1.8mまで嵩上げし、シカの侵入防止に対応できるように改良する。
- ②川沿いの未整備区間に柵を設置して、イノシシの河川からの侵入を防止する。

(3) 対策の実施

○「鳥獣害に強い集落づくり事業」を活用し、既存侵入防止柵の嵩上げ及び三隅川沿いの侵入防止柵の追加設置を実施した。いずれも既存侵入防止柵を有効に活用した施設整備としている。



高さ1.2m→1.8mの嵩上げ



川沿いに侵入防止柵の追加

5 取組の成果

○イノシシ、シカともに被害額が減少した。しかし、三隅川沿いの小溪流合流点など、わずかな隙間からイノシシの侵入が未だ見られる。

○一方、住民の意識啓発も進み、侵入防止柵の見回り・点検なども積極的に行われるようになった。

(千円)

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	実施前	実績	実績	増減	実績	増減	実績	増減
シカ	2,300	0	▲ 2,300	88	▲ 2,212	0	▲ 2,300	
イノシシ	1,200	25	▲ 1,175	900	▲ 300	0	▲ 1,200	

6 地区代表者のコメント

侵入防止柵の嵩上げにより、シカによる農産物被害の軽減に効果が現われてきている。今後は、侵入防止柵の見回り点検やメンテナンスに、地元の住民同士で協力して取り組んでいきたい。

7 今後の取組（長門農林水産事務所）

当地区では、既存侵入防止柵の改良（柵高の嵩上げ）により、効率的にシカ被害の軽減を図ることができた。他の地区においても、集落環境調査により状況を詳細に把握し、効率的な施設整備に繋げて被害軽減の対策を講じていきたい。